鷹取山自然観察会会報

2018. 6. 3 NO. 20

鷹取山の植物相調査結果 -2017年調査-

鷹取山は三浦半島北部に位置しており、神武寺から繋がる自然豊かな場所として、神奈川県生物多様性ホットスポットに選定された場所である。鷹取山自然観察会では2013年11月から会員有志で植物相調査を開始した。調査結果については2016年12月までの結果は会報12、16号で報告した。今回は、前回の結果を含めて2017年12月までの調査について報告する。

1 調査方法

2016年2月に環境省自然環境局生物多様センターが主催するモニタリングサイト1000里地調査の一般サイトに鷹取山が登録された。これにより、環境省自然環境局及び日本自然保護協会における「モニタリングサイト1000里地調査(モニ1000里地調査)マニュアル」により行った。

植物相の調査にはさまざまな方法があるが、 モニ 1000 里地調査では自然観察会のように定められたルートを定期的に歩いて植物の種名。この方法は、「高い精度で調査を行うことよって、高い精度で調査を行うことよるを第一に優先している。モニ 1000 調査・にを第一に優先しているが類、イネ科がよいとないとなっているが、こでは維管束植物のすべてについて調査するとした。シダ類については 6、10 月の 2 回達した。調査は調査ルート 3.5km を植生の違うをした。調査は調査ルート 3.5km を植生の増ましたとおりである。

表 1 調査区間の植生など特徴

区間	植生など特徴	距離
A	鷹取山公園落葉広葉樹林、一部草地も含む	540m
В	市街地の舗装道路及び公園	600m
С	シイ、カシ等常緑広葉樹林、一部桜並木含む	1300m
D	コナラ、オオシマザクラ等落葉樹林	270m
Е	スギ林縁部(逗子沼間自然環境保全地域境界)	540m
F	畑地及び林縁	230m



A区間(鷹取山公園)



B区間(住宅地)



C区間(シイ、カシ常緑樹林)



E区間(スギ林縁部)

2 調査結果

(1) 区間別の特徴

前回の結果(2016年12月まで)では維管束植物631種が確認され、木本61科188種、草本58科394種、シダ植物16科49種であった。

今回は前回の種も含めて653種が確認され、 木本 62 科 194 種、草本 62 科 409 種、シダ植物 16科50種であった。前回より種数が多いのは 調査を重ねることにより見逃しが少なくなり追 加された種数が増えたためである。区間別の調 査結果は表2のとおりである。区間別にその特 徴をみてみると、A区間は鷹取山公園を中心と した場所であり、カラスザンショウ、アカメガ シワ、コナラ、クヌギ、オオシマザクラ、ミズ キ、イヌシデ、ケヤキ、ムクノキなどの落葉広 葉樹とスダジイ、タブノキ、アカガシ、ウラジ ロガシ等の常緑広葉樹もまばらにみられた。ま た、ヤマグワ、タマアジサイ、シバヤナギ、キ ハギ、ヤマツツジ、ハコネウツギ、ヒメウツ ギ、マルバウツギ、コゴメウツギなどの中低木 も多くみられた。草本類では展望台付近にセン ボンヤリの群落、岩場にはケイワタバコの群落 が見られた。ケイワタバコは横須賀市内では貴 重な種でもあるが、しばしば盗掘にあい保全策 が必要と考えられる。公園内には広場があり、 草地がある。毎年2回程度草刈りが行われ、イ



D区間(落葉樹林)



F区間(畑地)

ネ植物、キク科植物が生育している。最近では ブタクサ、セイタカアワダチソウ、アレチヌス ビトハギ、メリケンカルカヤなど帰化植物も侵 入している。

B区間は市街地と子供のための公園がある場所である。住宅地内は人工的な環境であり路傍雑草などを中心としてアブラナ科、アカバナ科、キク科、イネ科などの外来種が多く確認された。区間内には鷹取小学校の石垣にトラノオシダ、イヌカタヒバなどのシダ類、コモチマンネングサ、コバノタツナミソウ、シンテッポウユリなどが年間を通じて見られた。

C区間はアカガシ、スダジイ、ウラジロガシなどの常緑広葉樹が中心であるため、他の区間と植生の違いがみられた。このため冬でも暗い森であり、林内は下草が少ない場所でもある。この地域ではクロモジ、ヤマコウバシ、ハナイカダ、ツルシキミ、ムラサキシキブなどの中低木もみられた。草本類ではキッコウハグマ、ツルカノコソウ、ヤマネコノメソウ、アマチャヅルなど、この区間でしか見られないものも数多くあった。

C区間の一部で一昨年8月下旬から昨年3月末まで東電の鉄塔補修工事中でレール等が引かれた。レール設置に伴いコナラ、スダジイ、アカガシなど数十本が伐採された。スダジイなどの一部はひこばえが出始めているが、コナラの

大木は殆どが枯れてしまい新芽は出てこなかった。伐採後にはカラスザンショウなどの実生が 多く見られた。今後植生の変化を調査により確認していきたい。



D区間ではクヌギ、コナラ、オオシマザクラ、ニガキなどの落葉広葉樹が多く、下草としての草本類は豊かであった。この区間は、在来種の比率が一番高い区間であり、ツクバトリカブト、ホタルカズラ、ヤマハッカ、タムラソウなど昔からの植物相が残っている地域である。

E区間は逗子沼間の保安林及び自然環境保全地域に指定された林縁である。林内には、スギ、ヒノキ、シロダモ、アオキ、ヤツデ等の常緑樹や、中低木としてムラサキシキブ、カマツカ、ガマズミ、ツクバネウツギなどの落葉樹も普通に見られた。

F区間は畑地がある場所であり、畑地沿いには、ニラ、ノビル、ヒメウズ、ヒガンバナ、オオジシバリなど草地や土手などに生える草本類が多く見られた。

区分	A区間	B区間	C区間	D区間	E区間	F区間	合計	
草本類	271	215	205	151	136	152	409	
木本類	127	65	104	87	82	68	194	
シダ類	31	16	27	25	11	19	50	
合計	429	296	336	263	229	239	653	

表 2 区間ごとに観察した種の数

注) 合計は、全区間の種の合計です。

(2) 新たに見つかった種

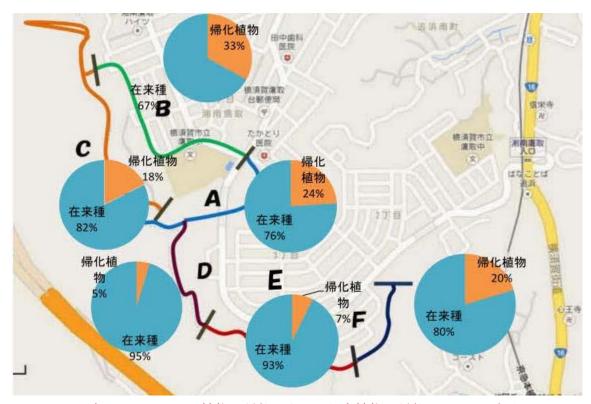
観察を続けていると新たに見つかる種があり、楽しみでもある。草本類ではニワホコリ、ヌカススキ、コジュズスゲ、ツルニンジン、ダキバアレチハナガサ、スミレ、ナンバンギセル、アカザ、アリタソウ、イヌビユ、ノボロギク、ダンドボロギクなどが新たに見つかった。これらは以前から生育していたもので、見逃しがあったものと思われる。ナンバンギセルは10年前には普通に見られたもので、今年は数カ所で見られた。

(3) 帰化植物

調査区間の自然度を見るため草本類について 帰化植物と在来種の分布割合を調べた。帰化植 物とは、外国原産の植物で、牧草用や鑑賞用と して輸入されたものが野生化して各地に広まっ ていった植物である。一方、日本に古来から生 育している種は在来種といわれている。 また、逸出種という栽培種が野生に入り込む ものがあり、逸出種も帰化植物に入れた。逸出 種にはオシロイバナ、ヒルザキツキミソウ、ム ラサキカタバミなど園芸種などから野生化した ものが多くある。帰化植物・逸出種の区分は横 須賀市自然・人文博物館編「三浦半島の野生植 物」によった。

一般的に都市化されてくると帰化植物が入り 込み在来種の生息域を狭めてくることが知られ ている。今回、区間ごとの帰化率は図のとおり であり区間ごとの特徴を見ることができた。B 区間は住宅地の道沿いと広場などであり、帰化 率が高くなっていた。一方、DE区間は在来種 の割合が高く、帰化植物が少なくなっていた。 A区間は鷹取山公園内であり、人の出入りも多く、開けた草地があるためイネ科、キク科等の 帰化植物が多かった。

また、人により持ち込まれた園芸種が年々増加傾向にあるため、ルールが必要と思う。



帰化率(%)=(帰化植物の種数/出現した全植物の種数)×100とする。

(4) 貴重種

今回の調査では 600 種を越える種が確認されたが、多くの種が株数も少なく絶滅に近い状態にある。以前はエビネ、キンラン、ギンランなどラン科植物はこの地域では普通に見られたと聞いているが、現在では人の目につくところでは生育していない。

特に数が少ない種を挙げると次のとおりである。草本類ではヨツバムグラ、イチヤクソウ、オオカモメヅル、コバノカモメヅル、カガイモ、ツリガネニンジン、ヤマホタルブクロ、キクアザミ、タムラソウ、ニオイタチツボスミレ、タルフロー・カッグが、アマドコウ、バナ、キンラン、アカショウマ、イワギー・フレー・カットをといる。ヤマラン、ヤマニガナなどはここ数年見られない。

木本類ではムベ、クロモジ、ヤマコウバシ、 リュウキュウマメガキ、ハチジョウクサイチ ゴ、ウラジロマタタビ、ミヤマシキミ、メギ、 イワガラミ、タラノキ、ムクロジ、コバノガマ ズミ、クサボケ、調査区域ではないがカゴノキ などは株数が少ない。

草本類や低木は、過度の草刈りや伐採にあって数を減らしている。一方、アズマネザザなどの繁茂によって草本類の生育場所が狭められて

いる。鷹取山周辺の緑地は鷹取山公園、横須賀市都市林、沼間の自然環境保全地域などであるが、民地も多く貴重種の保全は難しい課題と考えられる。

3 その他

三浦半島における植物相調査は、神奈川県植物誌会や市の植物相調査が行われているが鷹取山周辺について通年の調査などは行われていない。2016年4月には鷹取山がモニタリングサイト 1000里地調査に登録され、今後モニ 1000里地調査により継続的に行っていくことになった。

調査に当たって、横須賀市自然・人文博物館 の山本薫学芸員、大前悦宏氏に快く指導してい ただいたことを感謝します。

別表に草本、木本、シダ類と確認した種を掲載したが植物の分類は昨年までのエングラー分類からAPG分類体系に変更した。

当会では、今後も植物相調査を毎月第2金曜日に行っていく予定である。観察することにより、絶滅していく種やこの地域で新たに見つかる種もあるかもしれない。調査することは楽しみでもあり、続けることでこの地域の植物相がはっきりしてくると思う。

調査に参加した人(2017年1月~12月まで)

本多久男、金子龍次、小池順子、中村紀雄、高橋和子、三科清高、郡司久、村上良二、島村健

- 二、竹之下香苗、原秀子、高田静子、北村悦
- 子、市川實(順不同、敬称略)

総会の開催について(報告)

鷹取山自然観察会では5月13日の自然観察会終了 後に総会を開催しました。昨年度の会計報告と今年度 の事業計画について説明しました。



今年度の事業は昨年度とほぼ同様であり、事業計画は次のとおりです。

平成30年度事業計画

1. 自然観察会の開催

定期的な自然観察会の観察会の開催

毎月第2日曜日

2. 植物相調査など生き物調査

鷹取山周辺の植物相及び蝶、野鳥などについて調査ルートを歩き、記録する。28年度から環境省のモニタリングサイト1000里地調査により行っている。

実施時期

- (1) 植物相調査 第2金曜日
- (2) 蝶類調査 4月~11月の間 第1、3金曜日
- (3) 野鳥調査 12月~5月の間 第1、3金曜日
- (4) セミの抜け殻調査(2回) 7月27日金曜日、8月24日金曜日

3. 樹木板の設置

鷹取山公園を中心に平成25年から樹木板を設置している。今年度は40枚程度掛け替えを行う。 実施時期 28年6月29日金曜日

4. 巣箱の掛け替え

平成25年から野鳥の保護と野鳥観察を目的として 巣箱掛けを行ってきた。現在約17個の巣箱が掛かっ ており、その掛け替え作業をする。

実施時期 30年11月30日金曜日

- 5. 会報の発行、掲示板などによる情報発信
- (1) 会報 年4回(6月、9月、12月、3月)
- (2) 掲示板

鷹取山公園に市が設置した掲示板を活用し、季節の花だより、山で見られる蝶、野鳥、ドングリ、樹木マップなどポスターを作成して掲示する。

掲示板 毎月更新

- (3) ホームページの更新 随時更新する。
- 6. 鷹取山公園の利用について

鷹取山公園を管理している横須賀市と昨年度「鷹取山公園等を自然観察の里山づくりの利用について」と して協定を結び次の活動をする。

- (1) 貴重種の保護を目的とした看板、柵の設置
- (2) ビオトープ、貴重植物の保全活動
- (3) その他自然保護活動
- 7. 会員による観察会

会員の親睦と植物相の知識習得のため、近隣地域で 観察会を行う。

会員からの意見などは次のとおりでした。

- ○会の世話人は本多(代表)、中村が行う。
- ○自然観察会は非会員の参加が20人を超えることも あり、その場合2人体制でやっていきたい。
- ○会員の高齢化で力仕事が難しくなっている。若い会員の発掘が課題か。知り合いで観察会に興味ある方がいたらお誘いください。
- ○会報の印刷は、現在役所屋で行っているが、会員の協力をお願いしたい。また、会報への投稿も併せてお願いしたい。
- 〇ガイドブックの販売は、湘鷹みんなの部屋で引き続き行える。竹之下さんに販売手続きなどお願いしている。
- ○樹木板、巣箱の架け替え、セミの抜け殻調査は第4 金曜日を予定している。雨天の場合は、翌週月曜日に 延期とする。

○すべてのイベント、調査などは会員の興味関心のある方が参加するもので強制ではないので、都合のつく 範囲で参加してください。 ○チェーンソーの購入について意見があったが、傷害 保険の対象外となっていて難しい。

○植樹の件でドングリの苗木を育てていて、今後どこかに植えるかは検討していきたい。今年はやらない。

○会員の親睦のため近場での観察会を予定したい。日 程、場所は今後に検討したい。

階段づくり

4月27日金曜日に10時から会員有志により2時間ほど六浦側の観察路の階段整備を行いました。



この場所は、植物相調査などの調査区間となっていて、急斜面でとても滑りやすい場所でした。以前から危険防止のため階段をつけたいと思っていたところである。

作業は、土留の板と杭を2本打ち込み階段のステップを作っていった。ステップは全部で15段ほど作った。鍬で土を平らにしてから、杭を打ち込んだ。 会員の方々は普段力仕事をしていないこともあり、2 時作たす外やは今ていンはで思こもいる整きチーンのれま以り所、し



があれば、倒木などを活用することもできるが、チェーンソーの使用は障害保険の対象外でもあり、今回は土留の板、杭はホームセンターで購入しました。購入費用は次のとおりで、年会費で負担したので報告します。

板 @591 円×5=2,955 円

杭 @128 円×10=1,280 円 計 4,235 円

参加した人

本多久男、三科清高、原秀子、島村健二、伊沢昭 司(順不同、敬称略)

三浦半島昆虫研究会例会でモニ 1000 蝶類調査の発表

4月22日(日)に、横須賀市自然・人文博物館において三浦半島昆虫研究会の4月例会が開かれ、三浦半島各地におけるモニタリング1000里地調査(チョウ類)の状況が発表されました。横須賀市野比地区における10年間の調査について鈴木裕氏、横須賀市粟田水辺公園における10年間の調査について坂本繁夫氏(代読、中村進一氏)、今年から始まった逗子市披露山周辺地区の調査について飯田博茂氏から発表が行われ、横須賀市鷹取山地域の鷹取山自然観察会による調査については、三科が発表しました。

野比地区の調査は三浦半島昆虫研究会によるもので、10年間のデータを基に科ごとの個体数の推移を示して、樹林や草地の変化との関係などが発表されました。野比地区の調査は2017年で終了し、

披露山公園周辺地区に切り替わります。野比地区については、モニ 1000 とは別に、随時、有志により状況を把握していくことになりました。

水辺公園の調査は水辺公園友の会により、今後も調査が継続されます。2008年からのモニ1000調査に先立って、1980年代以降からは52種の記録がありますが、イチモンジチョウ、オオチャバネセセリ、ツマキチョウは、2017年までのモニタリング期間中は記録されず、49種の記録となっています。最多記録種はイチモンジセセリ、ヒメウラナミジャノメ、キタキチョウとのことでした。また、個体数は全般的に少なく、たとえばアオスジアゲハを除くアゲハ類、とりわけ、アゲハ、キアゲハが少ないとのことでした。また、ススキの草原が放置され、背の高い

草でヤブ化してから、ジャノメチョウが見られなくなったことも発表されました。

鷹取山地域の鷹取山自然観察会による調査は、2016年からのモニ 1000 調査に先立つ2年間も調査を行っており、調査結果を会報で公表していることを紹介しました。また、会報19号の内容に沿って、ジャコウアゲハ、モンキアゲハ、カラスアゲハが良く見られることなど、鷹取山の植生が反映されていると考えられる状況を発表しました。

披露山公園周辺地区は三浦半島昆虫研究会による 新たなサイトでの調査となるため、披露山公園、庭 園住宅、大崎公園、浪子不動、披露山公園と回るコ ースが紹介され、調査への参加が呼びかけられまし た。

発表された調査地で共通の傾向が確認されたのは、アカボシゴマダラ、ナガサキアゲハ、クロコノマチョウの定着と増加、ヒメアカタテハ、ゴマダラチョウ、ジャノメチョウ、モンキチョウの減少でした。

調査データを蓄積し、分析してみることで、植生などの蝶の生息環境の変化を捉えることができま

す。また、多くの個体が記録される蝶では、年間の個体数の変化を見れば、その蝶の生活史の一端を知ることもできます。たとえば、鷹取山のヒメウラナミジャノメは3化(年3回羽化)であることがデータからわかります。

三浦半島各地での調査の発表を通して、継続的に モニタリング調査を行うことの大切さが再認識されました。



アサギマダラ 2018年5月4日蝶類調査時撮影

イノシシの目撃情報

横須賀市、逗子市、葉山町などで最近イノシシの 目撃情報が寄せられています。現在のところ人への 被害報告はありませんが、イノシシを目撃等した場 合は、市役所へ通報してください。また、横須賀市 ではホームページなどで注意喚起しています。

1. 横須賀市、逗子市、葉山町の目撃情報

平成26年以降、田浦泉町、長浦町、県立塚山公園 周辺、芦名、鴨居などでイノシシの目撃情報があり ます。また、田浦大作町ではイノシシによる作物被 害がありました。横須賀市では田浦大作町、田浦町 四丁目及び県立塚山公園付近の林道内に設置したセ ンサーカメラで夜間にイノシシが確認されていま す。

逗子市では平成28年以降に沼間3丁目、沼間1丁目、桜山付近の林道などでイノシシの情報が寄せられています。

葉山町では二子山を中心にイノシシが60頭位生息 していて、農業への被害が発生しています。現在の ところ鷹取山では目撃はされていません。

2. ハイキングなどで歩く場合の注意事項(横須賀市 HP)

二子山、田浦大作町及び塚山公園付近の山林内を 歩く際は、昼間は鈴などで音を出す、夜間は懐中電 灯などで光を出す等、人の存在を知らせる工夫をしてください。

イノシシを目撃したら近寄らず、ゆっくり静かに その場から離れてください。

イノシシが近づいてきた場合は、イノシシと向かい合ったままゆっくりと後ずさりし、速やかにその



場を離れてください。

イノシシを刺激しないようにしてください。 (大声を出さない、急に動かない、棒などを振り上げない、石を投げない等)

電話番号: 046-822-8528

クヌギ・コナラの被害

5月の初旬に観察会などで鷹取山周辺を歩いていると、クヌギ、コナラの樹皮が写真のように剥がされ傷つけられていました。鷹取山公園から浜見台方向の尾根道にあるクヌギ、コナラ 100 本近い木がナタなどで傷つけられていました。観察会のメンバーも酷いことと言っていました。

誰がやったことかわかりませんが、木が枯れないことを願うばかりです。なぜやったかは分かりませんが、多分、樹皮を剥がして樹液を出させ、カブトムシなど甲虫を採取しようとしたのかもしれません。

ネットなどで検索しても樹皮を剥がしただけでは 樹液は出てこないのです。樹液がでてくる仕組みは 複雑で、昆虫が関与して樹液がでてくるそうです。 木を痛めずにカブトムシなどを集めるにはバナナなどを使ってバナナトラップを木に巻き付けるのが 簡単です。

これ以上、木を痛めないでほしいものです。



虫の写真館

会員の方から寄せられた虫の写真を紹介します。 今回は、竹之下香苗さんから「モンシロチョウの 蛹」の写真をいただきました。 竹之下邸台所口の壁にアオムシが作った蛹が5月17日に羽化。モンシロチョウは良く見かけても蛹を見つけるのは難しい。モンシロチョウは安全な場所を探して蛹になります。



期 皆さま、これからも面白い写真をお願いします。



蛹殼



モンシロチョウ

鷹取山自然観察会(ホームページを見て下さい)

HP: 鷹取山自然観察会

http://takatoriyama.eco.coocan.jp/